

# 月例参拝に参加して

柴田 幹雄 陸自75

偕行社では会員が月例として、団体で靖國神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑、市ヶ谷駐屯地メモリアルゾーンを参拝している。毎月、参拝をする期を指定しており、その指定は「偕行」の事務局だよりに掲載されている。

8月21日は陸自70期以降の月例参拝の指定なので、私も参拝することにした。偕行社の行事等で昇殿参拝は何度もしているのだが、期別の月例参拝は初めてだった。

13時過ぎに指定された靖國神社参集殿の2階に上り、偕行社の受付をすませ、しばし同期・先輩方と歓談。今回は陸士58期が最年長で、総勢40名。75期は私の他、大谷雄二君、佐藤修一君、高梨潤一郎君、西本正弘君が参加していた。陸士出身の大先輩と気軽に話せる良い機会でもある。

案内に従って階下に進み、渡り廊下手前の手水舎で清めの水を使い、直ぐに靖國神社本殿へ進む。終戦の日などの特別の日に参拝する場合は大人数での参拝となり、一度拝殿に昇って待機し、適宜の人数ごとに本殿に進むのだが、さすが偕行社の月例参拝は特別だ

と感激する。

本殿では代表者が神職から玉串を受けて、これを捧げ、二礼二拍手一礼を代表者に合わせて行う。

戊辰戦争、西南戦争を含め、日清戦争、日露戦争や各事変、大東亜戦争などで戦死・戦没・法務死をされた246万6千余の英霊に祈りを捧げた。先人は日本国家を各種脅威から守つたのみならず、大航海時代から産業革命を経た時代の欧州白人による地球支配と人種差別を打破し、人類史上に大変革を与えた歴史の中で倒れた。まさに現在の世界の繁栄の礎となられたのだ。

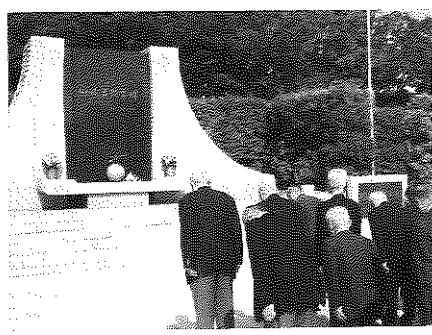
その後、靖國神社から、偕行社が手配したバスに乗り、数分で千鳥ヶ淵戦没者墓苑に到着。千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会に勤務する塚田章君が迎えてくれた。同君から献花のための菊を手渡してもらって、納骨堂である六角堂献花台に花を供えた。ここには身元不明の36万9千余柱の遺骨が納められている。献花の後、墓苑奉仕会の事務所棟で遺骨収集に関し説明を受けた。今年の4月に厚生労働省が米国防省と遺骨収集について協力関係を強化する覚書を結んだ。身元特定をするためのDNA鑑定技術の情報共有を図るためという。米国は国防省に「捕虜・行方不明者調査局(DPAA)」という組織を持つている。少将を長として、今でも朝鮮戦争時の不明者の遺骨を北朝鮮

から返還させ、DNA鑑定をしている。日本は従来現地では遺骨を茶毘に付していたが、それをやめ、DNA鑑定を精度を上げるようにしているとのこと。またシベリアからの遺骨は、寒冷な地であることから判明率が高い。平成15年に降に帰還した遺骨の3割ほど身元が判明していることを聞いた。



千鳥ヶ淵戦没者墓苑での参拝

礼をした。厳しい訓練のさなかに、また任務遂行中に、志半ばにして尊い命を捧げた仲間たちに心から哀悼の意を表した。



自衛隊殉職者慰霊碑での参拝

将来、不幸にして防衛出動で戦闘中に死亡した場合でも、「戦死」という概念が自衛隊にはない。名誉の戦死とならないのであれば、隊員の処遇や、また慰霊はどうなるのだろうかと思いつつ、市ヶ谷を後にした。

再びバスに乘車し、市ヶ谷駐屯地へ移動した。事前に名簿を提出しているので、営門も一旦停車するだけで、中央業務支援隊の隊員の出迎えを受けメモリアルゾーンに降り立つ。芝や植栽なども手入れが行き届き、常に美しく管理してくれている隊員たちに感謝しつつ、自衛隊殉職者慰霊碑に全員で拜

この月例参拝の終始を通じて、偕行社事務局長山越孝雄君がエスコートしてくれた。有難うございました。個人でこのような参拝をすると、手続きも経費も結構な負担になるから、月例参拝は会員にとつて大きな特権と言える。参拝したことはない会員の皆さん、次の機会に是非どうぞ。ご家族帯同でも大丈夫です。